

佐賀県畜産の概要

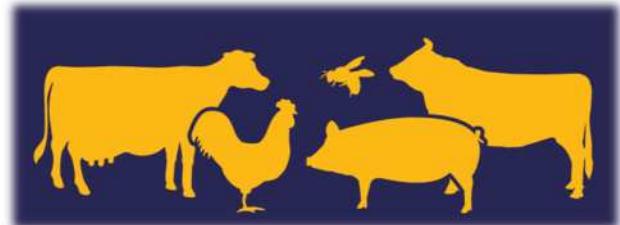


令和7年11月

佐賀県農林水産部畜産課

さが畜産GO×2プロジェクトとは、

県と農業団体等が一体となって課題解決に取り組み、
さが畜産のロールモデルとなる畜産農家と産地の創出を
目指すプロジェクトです。

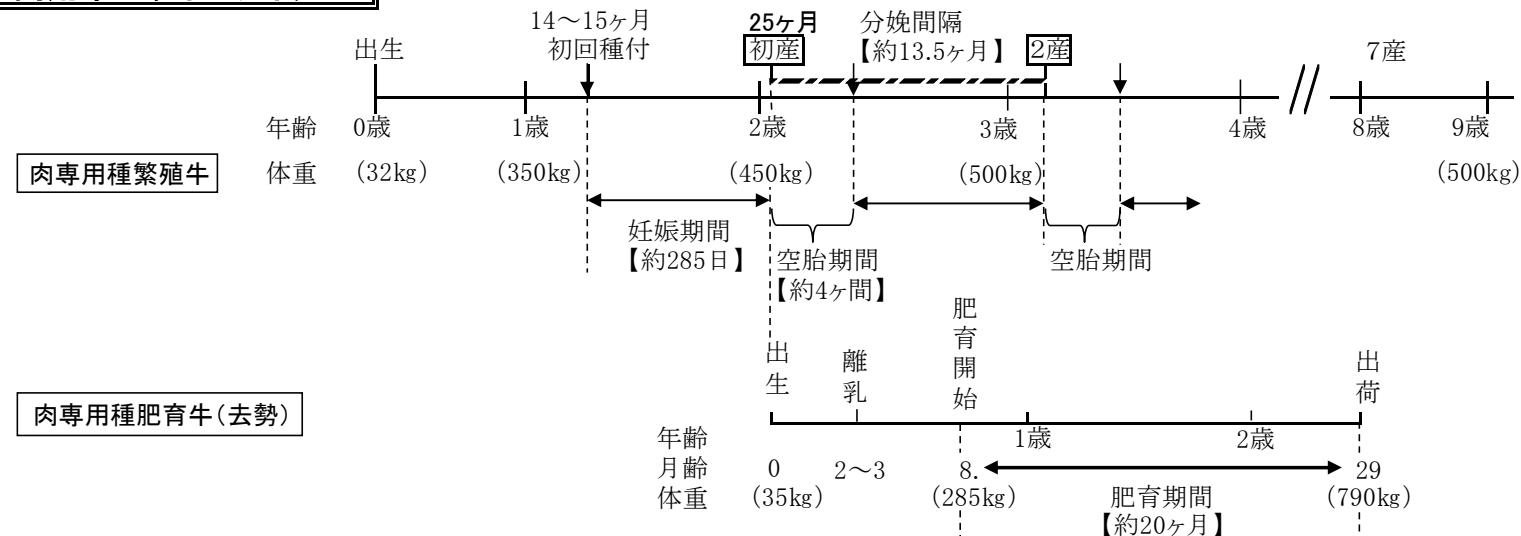


目 次

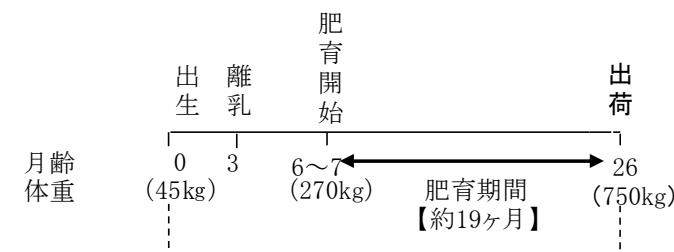
I	家畜のライフサイクル	P 1
●	肉用牛・乳用牛のライフサイクル	P 2
●	豚・肉用鶏・採卵鶏のライフサイクル	P 3
II	最近の畜産を巡る情勢	P 4
●	佐賀県における農業産出額の推移	P 5
●	肉用牛	P 6
●	酪農	P10
●	養豚	P12
●	採卵鶏	P14
●	ブロイラー	P15
●	飼料、畜産環境保全	P17
●	佐賀県内で飼養されている牛及び豚、鶏一覧	P18
III	畜産物の生産・流通状況	P19
●	牛乳 (R2) ・肉牛流通図 (R6)	P20
●	「佐賀牛」の概要	P21
●	肉用牛改良資源施設飼養種雄牛一覧 (R7 年 8 月現在)	P22
●	和牛枝肉販売実績表 (R3～R6 年度)	P23
●	佐賀牛・佐賀産和牛輸出量推移 (H19～R6 年度)	P24
●	「肥前さくらポーク」の概要 (生産体系)	P25
●	肉豚・肥前さくらポーク流通図 (H21・R6 年度)	P26
●	食料自給率・消費量の推移	P27
●	家計調査	P28
IV	参考資料	P31
●	配合飼料価格の推移について	P32
●	高病原性鳥インフルエンザ等の解説	P33

I 家畜のライフサイクル

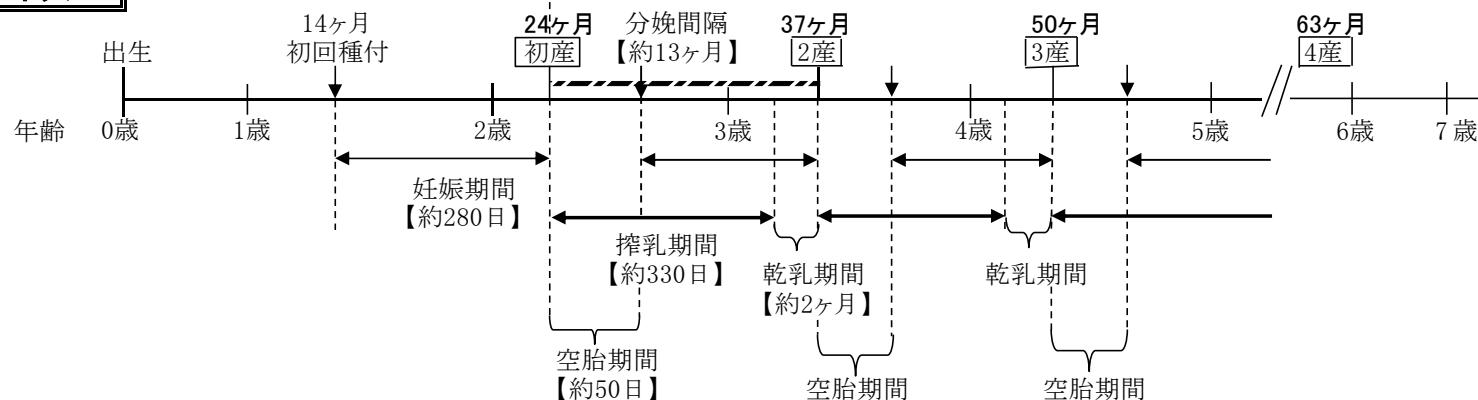
肉用牛のライフサイクル



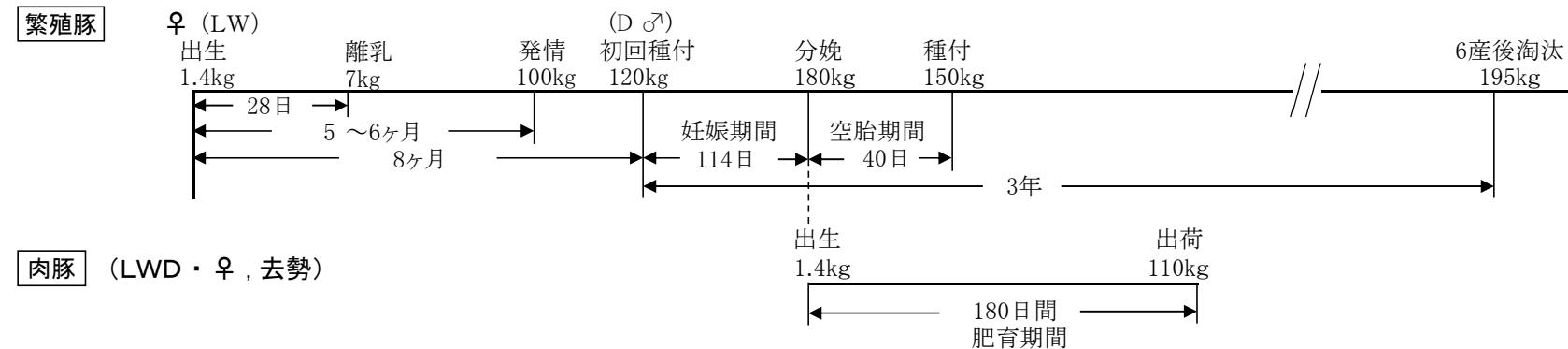
交雑種肥育牛



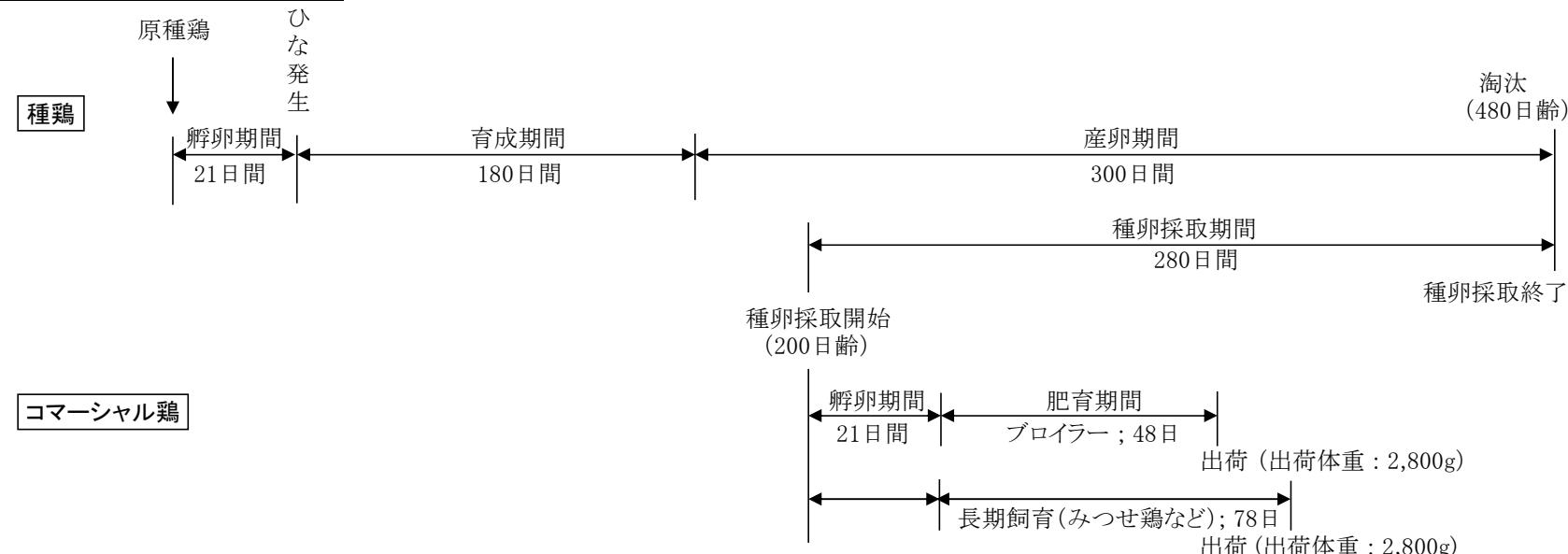
乳用牛のライフサイクル



豚のライフサイクル



肉用鶏のライフサイクル



採卵鶏のライフサイクル



II 最近の畜産を巡る情勢

1 佐賀県における農業産出額の推移

○本県畜産部門の産出額は378億円で、農業全体の29.4%を占めている。

○品目別には、肉用牛が185億円でトップ、次いで鶏の118億円、豚の55億円となつた。

(単位：億円、%)

区分(年次)	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	R5年/H30年比
農業産出額	1,277 (100.0)	1,135 (100.0)	1,219 (100.0)	1,206 (100.0)	1,307 (100.0)	1,284 (100.0)	100.5
耕種	921	791	873	845	939	901	97.8
畜産	351 (27.5)	340 (30.0)	342 (28.1)	356 (29.5)	363 (27.8)	378 (29.4)	107.7
肉用牛	172 (13.5)	163 (14.4)	162 (13.3)	181 (15.0)	182 (13.9)	185 (14.4)	107.6
乳用牛	19 (1.5)	18 (1.6)	20 (1.6)	19 (1.6)	18 (1.4)	17 (1.3)	89.5
うち生乳	15 (1.2)	15 (1.3)	17 (1.4)	16 (1.3)	16 (1.2)	15 (1.2)	100.0
豚	48 (3.8)	49 (4.3)	52 (4.3)	51 (4.2)	51 (3.9)	55 (4.3)	114.6
鶏	110 (8.6)	108 (9.5)	105 (8.6)	101 (8.4)	109 (8.3)	118 (9.2)	107.3
うち鶏卵	14 (1.1)	14 (1.2)	12 (1.0)	13 (1.1)	12 (0.9)	16 (1.2)	114.3
その他	2 (0.2)	2 (0.2)	3 (0.2)	3 (0.2)	3 (0.2)	3 (0.2)	150.0

資料 農林水産省「農業産出額及び生産農業所得（都道府県別）」（令和7年3月25日公表）

注 農業産出額には、上記以外に加工農産物を含む。

各部門の計と内訳は、ラウンドの関係で一致しない場合がある。

2 肉用牛

(1) 飼養戸数及び頭数

○本県肉用牛の飼養戸数は478戸で、5年間で17.0%減少し、飼養頭数は50,800頭で、5年間で2.9%増加した。

○農家1戸当たり飼養頭数は106.3頭/戸で、5年間で17.1%増加した。

【飼養戸数及び頭数】

(単位：戸、頭、頭/戸、%)

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
飼養戸数	全国	43,900	42,100	40,400	38,600	36,500	34,000	77.4
	佐賀	576	554	532	519	508	478	83.0
飼養頭数	全国	2,555,000	2,605,000	2,614,000	2,687,000	2,672,000	2,595,000	101.6
	佐賀	52,300	52,600	52,800	52,400	52,200	50,800	97.1
1戸当たり飼養頭数	全国	58.2	61.9	64.7	69.6	73.2	76.3	131.1
	佐賀	90.8	94.9	99.2	101.0	102.8	106.3	117.1

資料 農林水産省「畜産統計」（令和7年2月1日現在、令和7年7月25日公表）

ア 肥育牛飼養及び生産状況

(単位：戸、頭、頭/戸、%)

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
肉専用種	飼養戸数*	191	190	184	189	181	186	97.4
	飼養頭数*	36,500	36,500	36,600	36,400	36,300	35,200	96.4
	1戸当たり飼養頭数*	191.1	192.1	198.9	192.6	200.6	189.2	99.0
	出荷頭数**	22,325	21,836	21,945	22,494	22,613	—	—
乳用種	飼養戸数*	31	25	28	25	29	24	77.4
	飼養頭数*	1,060	1,130	1,220	1,160	1,270	1,430	134.9
	1戸当たり飼養頭数*	34.2	45.2	43.6	46.4	43.8	59.6	174.3
	出荷頭数**	846	792	966	858	839	—	—

資料 農林水産省「畜産統計」（令和7年2月1日現在、令和7年7月25日公表）

出荷頭数は、家畜改良センターデータ「と畜頭数」（年度計）

注 *は年次計、**は年度計。

飼養戸数は延べ戸数。飼養頭数は、肥育農家（一貫農家を含む。）が哺育育成中又は肥育中の頭数。

イ 子取り用めす牛（繁殖牛）飼養及び肥育素牛生産状況 (単位：戸、頭、頭/戸、%)

区分(年次)	2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比	
肉専用種	繁殖牛飼養戸数*	440	420	407	398	390	362	82.3
	繁殖牛飼養頭数*	9,710	9,890	10,000	10,100	9,950	9,640	99.3
	一戸当たり繁殖牛飼養頭数*	22.1	23.5	24.6	25.4	25.5	26.6	120.4
	出生頭数**	8,266	8,298	8,046	8,017	7,650	—	—
	肥育素牛生産頭数**	6,612	6,638	6,436	6,413	6,120	—	—
	と畜頭数**	22,325	21,836	21,945	22,494	22,613	—	—
	肥育素牛県内自給率**	29.6	30.4	29.3	28.5	27.1	—	—

資料 農林水産省「畜産統計」（令和7年2月1日現在、令和7年7月25日公表）

家畜改良センターデータ（出生頭数、と畜頭数）（年度計）

注 *は年次計、**は年度計。

肥育素牛生産頭数、と畜頭数、自給率は肉専用種(黒毛和種)のみの数値。

肥育素牛生産頭数は、出生頭数×0.8。

(2) 生産及び価格の動向

○本県の肉用子牛出荷頭数は5,735頭で、5年間で10.9%減少した。

○と畜頭数は23,452頭で、5年間で0.4%増加した。

【肉用子牛出荷頭数及びと畜頭数】

(単位：頭、%)

区分(年次)	令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比	
肉用子牛出荷頭数	全国	312,198	342,798	348,530	360,813	366,887	363,243	116.4
	佐賀	6,434	6,720	6,147	6,206	6,039	5,735	89.1
と畜頭数	全国	1,043,093	1,051,862	1,055,075	1,087,545	1,104,523	1,115,150	106.9
	佐賀	23,368	23,178	22,628	22,911	23,362	23,452	100.4
うち黒毛和種	全国	457,904	477,761	482,847	489,792	506,677	542,515	118.5
	佐賀	22,456	22,325	21,836	21,945	22,494	22,613	100.7
うち乳用種	全国	332,323	328,203	325,007	330,560	320,153	306,221	92.1
	佐賀	326	349	301	390	286	256	78.5
うち交雑種	全国	236,905	228,052	228,798	248,612	260,789	255,660	107.9
	佐賀	581	497	491	576	572	580	99.8

資料 肉用子牛出荷頭数は農畜産業振興機構HP「肉用子牛取引状況表（中央家畜市場）」（年度計）

と畜頭数のうち全国値は農林水産省「畜産物流通統計」（令和7年7月18日公表）（年度計）

と畜頭数のうち佐賀県の値は家畜改良センターデータ（年度計）

注 と畜頭数のうち黒毛和種の全国値は、「和牛」の頭数を採用。

【和子牛価格及び牛枝肉卸売価格】

(単位：円/頭、円/kg、%)

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
和子牛価格	全国	766,011	688,976	755,156	667,824	569,134	538,854	70.3
	佐賀	747,918	654,871	755,831	668,528	566,909	539,957	72.2
和牛去勢A-5価格 (大阪)		2,794	2,522	2,767	2,664	2,574	2,492	89.2
和牛去勢A-4	〃	2,417	2,079	2,451	2,340	2,157	2,086	86.3
乳牛去勢B-3	〃	-	1,058	1,151	1,881	1,165	775	-
乳牛去勢B-2	〃	1,091	1,033	1,057	1,339	829	1,004	92.0

資料 農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

大阪市場の価格については農林水産省「畜產物流通統計」（令和7年7月18日公表）

(3) 肉専用種枝肉格付状況の推移（黒毛和種去勢 4・5率）

○本県産牛肉の格付状況は、5年間で4・5率が7.6ポイント増加し、95.4%となった。

(単位：%、ポイント)

区分(年度)		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年-R1年
4 率	全国	37.7	36.0	33.4	28.9	27.0	24.4	-13.3
	佐賀	36.0	32.0	28.6	26.4	23.7	23.3	-12.7
5 率	全国	48.8	52.2	56.7	62.7	65.4	70.0	21.2
	佐賀	51.8	59.4	64.0	67.7	70.7	72.0	20.2
合 計	全国	86.6	88.2	90.1	91.6	92.5	94.3	7.7
	佐賀	87.8	91.4	92.5	94.1	94.4	95.4	7.6

資料 (公社)日本食肉格付協会「牛枝肉格付情報」

(4) 佐賀牛の出荷頭数

○肉質の改良や肥育技術の向上などにより、佐賀牛の発生率は年々向上している。

(単位：頭、%、ポイント)

区分(年度)		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年/R1年比
JAグループ出荷頭数		16,391	16,259	16,091	15,987	16,834	16,654	101.6
佐賀牛の出荷頭数		11,099	12,114	12,741	13,116	14,129	14,194	127.9
佐賀牛の発生率		67.7	74.5	79.2	82.0	83.9	85.2	+17.5

資料 JAグループ佐賀

(5) 収益性の動向

○価格の低迷や飼料価格の高騰等により、所得は大幅に減少している。

【収益性】

(単位：円/頭、%)

区分(年度)		30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	R5年-H30年
繁殖雌牛 1頭当たり 所得 (子牛生産費)	全国	336,995	327,905	243,981	260,554	107,460	△ 24,810	△ 361,805
	九州	324,362	295,739	194,949	157,597	93,436	△ 34,406	△ 358,768
去勢若齢肥育牛 1頭当たり所得	全国	54,041	70,929	△ 49,813	66,941	7,451	△ 82,579	△ 136,620
	九州	6,097	38,707	△ 80,520	61,748	△ 10,800	△ 103,572	△ 109,669
交雑種肥育牛 1頭当たり所得	九州	△ 15,712	39,374	△ 104,939	△ 39,864	△ 71,385	△ 60,879	△ 45,167
乳用雄肥育牛 1頭当たり所得	九州	△ 12,138	△ 11,840	△ 35,635	△ 77,927	△ 149,989	90,344	102,482

資料 農林水産省「農業経営統計調査 令和5年度畜産物生産費」（令和7年3月28日公表）

(6) 輸入の動向

○牛肉の輸入量は約50万トンで、5年間で18.7%減少した。

○米国、豪州産で総輸入量の約8割を占めており、5年間で米国産は28.0%減少し、豪州産は17.0%減少した。

【輸入量】

(単位：トン、%)

区分(年度)		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年/R1年比
輸入量		622,366	590,992	569,107	562,505	501,898	506,260	81.3
うちアメリカ		245,377	252,705	221,918	232,994	191,802	176,562	72.0
うちオーストラリア		290,926	255,908	228,100	208,016	221,186	241,517	83.0

資料 農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

3 酪農

(1) 飼養戸数及び頭数

○本県酪農の飼養戸数は28戸で、5年間で31.7%減少し、飼養頭数は1,740頭で、5年間で22.3%減少した。

○農家1戸当たり経産牛飼養頭数は51.4頭/戸で、5年間で19.8%増加した。

【飼養戸数及び頭数等】 (単位：戸、頭、頭/戸、kg/頭、%)

区分(年次)		2年	3年	4年	5年	6年	7年	R7年/R2年比
飼養戸数	全国	14,400	13,800	13,300	12,600	11,900	11,300	78.5
	都府県	8,520	8,120	7,740	7,240	6,730	6,350	74.5
	佐賀	41	40	39	34	32	28	68.3
飼養頭数	全国	1,352,000	1,356,000	1,371,000	1,356,000	1,313,000	1,293,000	95.6
	都府県	531,400	525,900	525,100	513,000	491,200	476,200	89.6
	佐賀	2,240	2,110	2,140	1,970	1,830	1,740	77.7
経産牛飼養頭数	全国	838,900	849,300	861,700	836,600	826,200	820,100	97.8
	都府県	379,100	379,000	380,800	366,600	358,200	349,700	92.2
	佐賀	1,760	1,640	1,650	1,540	1,440	1,440	81.8
未経産牛飼養頭数 (2歳未満)	全国	452,000	445,800	447,200	459,300	423,000	411,600	91.1
	都府県	126,500	120,600	117,200	120,000	105,700	100,000	79.1
	佐賀	380	360	390	340	280	240	63.2
1戸当たり経産牛飼養頭数	全国	58.3	61.5	64.8	66.4	69.4	72.6	124.6
	都府県	44.5	46.7	49.2	50.6	53.2	55.1	123.8
	佐賀	42.9	41.0	42.3	45.3	45.0	51.4	119.8
経産牛1頭当たり搾乳量	全国	8,812	8,874	8,971	8,779	8,938	-	-
	都府県	8,665	8,756	8,853	8,697	8,827	-	-
	佐賀	8,439	8,539	8,512	7,969	8,023	-	-

資料 農林水産省「畜産統計」（令和7年2月1日現在、令和7年7月25日公表）

農林水産省「牛乳乳製品統計」（令和5年7月26日公表）

注 「経産牛1頭当たり搾乳量」（佐賀）： 生乳生産量/{（当年の経産牛飼養頭数+次年の経産牛飼養頭数）/2} *1,000

(2) 生産及び価格の動向

○県プール乳価は128円/kgで、5年間で17.4%増加した。

【生乳生産量及び乳製品等の価格】

(単位:t、円/kg、円/25kg、%)

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
生乳生産量	全国	7,313,530	7,438,218	7,592,061	7,617,473	7,298,933	7,357,451	100.6
	都府県	3,265,333	3,284,504	3,326,461	3,308,198	3,151,952	3,124,401	95.7
	佐賀	14,336	14,346	14,046	13,576	11,874	11,553	80.6
原料用バター価格		1,385	1,407	1,388	1,372	1,537	1,620	117.0
脱脂粉乳価格(25kg)		17,873	17,698	17,598	17,580	19,511	19,611	109.7
佐賀県プール乳価		109	110	110	112	124	128	117.4

資料 農林水産省「牛乳乳製品統計」(令和7年7月28日公表)

「大口需要者向けの価格動向」(令和7年5月26日公表)

J A グループ佐賀データ(佐賀県プール乳価)

注 バター及び脱脂粉乳価格は年度平均

都府県の生乳生産量は、全国値から北海道値を差し引いた値

佐賀県プール乳価は令和元年度から算出方法変更

(3) 収益性

○搾乳牛1頭当たりの所得は252,987円で、5年間で17.5%減少した。

【収益性】

(単位:円/頭、%)

区分(年度)		30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	R5年/H30年比
搾乳牛通年換算 1頭当たり所得	全国	291,225	278,479	261,994	211,136	106,546	151,146	51.9
	九州	306,593	270,046	303,314	310,584	238,895	252,987	82.5

資料 農林水産省「農業経営統計調査 令和5年度畜産物生産費」(令和7年3月28日公表)

4 養豚

(1) 飼養戸数及び頭数の動向

○本県養豚の飼養戸数は28戸で、5年間で34.9%減少し、飼養頭数は69,500頭で、5年間で14.8%減少した。

○農家1戸当たり飼養頭数は2,482頭/戸で、5年間で30.8%増加した。

【飼養戸数及び頭数】

(単位：戸、頭、頭/戸、%)

区分(年次)		令和元年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
飼養戸数	全国	4,320	3,850	3,590	3,370	3,130	72.5
	佐賀	43	35	34	31	28	65.1
飼養頭数	全国	9,156,000	9,290,000	8,949,000	8,956,000	8,798,000	96.1
	佐賀	81,600	82,900	82,600	85,400	69,500	85.2
子取り用めす豚 頭数	全国	853,100	823,200	789,100	791,800	758,300	88.9
	佐賀	7,390	7,160	6,660	6,470	6,100	82.5
1戸当たり飼養 頭数	全国	2,119	2,413	2,493	2,658	2,811	132.7
	佐賀	1,898	2,369	2,429	2,755	2,482	130.8

資料 農林水産省「畜産統計」（令和6年2月1日現在、令和6年7月9日公表）

注 令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

(2) 生産及び価格の動向

○本県の肉豚と畜頭数は97,399頭で、5年間で7.2%減少した。

○卸売価格は653円/kgで、5年間で24.4%増加した。

【と畜頭数及び枝肉価格】

(単位：頭、円/kg、%)

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
と畜頭数	全国	16,318,552	16,689,638	16,835,709	16,577,133	16,406,981	16,259,395	99.6
	佐賀	104,921	104,828	103,526	99,795	99,643	97,399	92.8
卸売価格（東京市場・極上・上）		525	565	547	589	608	653	124.4

資料 農林水産省「畜產物流通統計」（令和7年7月18日公表）

(3) 豚肉の上物率（格付「極上」と「上」の割合） (単位：%、ポイント)

区分(年度)	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年-R1年
肉豚上物率	65.0	61.3	60.8	60.7	62.8	67.3	2.3

資料 JAグループ佐賀データ

(4) 収益性の動向

○肥育豚1頭当たりの所得は1,629円で、飼料価格高騰等の影響により減少した。

【収益性】 (単位：円/頭、%)

区分(年度)	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	R5年/H30年比
肥育豚1頭当たり	全国	7,504	7,596	9,712	4,533	1,160	1,807
所得	九州	8,477	7,592	10,302	4,993	1,080	1,629

資料 農林水産省「農業経営統計調査 令和5年度畜産物生産費」（令和7年3月28日公表）

(5) 輸入の動向

○豚肉の輸入量は約98万トンで、5年間で3.2%増加した。

【輸入量】 (単位：トン、%)

区分(年度)	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年/R1年比
輸入量	953,112	883,985	928,994	965,146	914,512	983,276	103.2
うちアメリカ	251,196	250,265	249,078	226,712	224,745	219,789	87.5
うちカナダ	236,255	235,430	226,213	208,376	221,052	243,486	103.1
うちスペイン	122,812	98,995	136,233	189,502	164,138	178,370	145.2
うちデンマーク	102,489	74,269	81,367	84,612	55,633	54,767	53.4

資料 農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

5 採卵鶏

(1) 飼養戸数及び羽数の動向

○本県採卵鶏の飼養戸数は24戸で、5年間で20.0%減少し、飼養羽数は251千羽で、5年間で48.1%減少した。

○農家1戸当たり飼養羽数は10.5千羽/戸で、5年間で34.8%減少した。

【飼養戸数及び飼養羽数】

(単位：戸、千羽、千羽/戸、%)

区分(年次)		令和元年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
飼養戸数	全国	2,120	1,960	1,880	1,760	1,700	80.2
	佐賀	30	26	24	24	24	80.0
飼養羽数	全国	182,368	183,373	182,661	172,265	168,599	92.4
	佐賀	484	319	267	200	251	51.9
成鶏めす飼養羽数	全国	141,792	140,697	137,291	128,579	129,729	91.5
	佐賀	363	283	230	184	233	64.2
1戸当たり飼養羽数	全国	86.0	93.6	97.2	97.9	99.2	115.3
	佐賀	16.1	12.3	11.1	8.3	10.5	65.2

資料 農林水産省「畜産統計」（令和6年2月1日現在、令和6年7月9日公表）

注 戸数及び羽数は種鶏を除く

令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

(2) 生産及び価格の動向

○本県の鶏卵生産量は3,501トンで、5年間で50.5%減少した。

【出荷量及び価格】

(単位：トン、円/kg、%)

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
生産量	全国	2,639,733	2,632,882	2,574,255	2,585,987	2,426,940	2,480,663	94.0
	佐賀	7,069	6,290	5,415	4,768	4,914	3,501	49.5
卸売価格(東京・全農M・税抜)		182	170	215	251	276	254	139.6

資料 農林水産省「鶏卵流通統計」（令和7年7月18日公表）

農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

注 卸売価格については「年度平均」。

6 ブロイラー

(1) 飼養戸数及び羽数の動向

○本県ブロイラーの飼養戸数は62戸で、5年間で8.8%減少し、飼養羽数は3,929千羽で、0.2%減少した。

○農家1戸当たり飼養羽数は63.4千羽/戸で、5年間で9.5%増加した。

【飼養戸数及び飼養羽数】

(単位：戸、千羽、千羽/戸、%)

区分(年次)		令和元年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
飼養戸数	全国	2,250	2,160	2,100	2,100	2,050	91.1
	佐賀	68	64	63	62	62	91.2
飼養羽数	全国	138,228	139,658	139,230	141,463	144,859	104.8
	佐賀	3,935	3,751	3,637	3,949	3,929	99.8
1戸当たり飼養 羽数	全国	61.4	64.7	66.3	67.4	70.7	115.1
	佐賀	57.9	58.6	57.7	63.7	63.4	109.5

資料 農林水産省「畜産統計」（令和6年2月1日現在、令和6年7月9日公表）

注 令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

(2) 生産及び価格の動向

○本県のブロイラー出荷羽数は17,366千羽で、5年間で0.7%増加した。

【出荷戸数・羽数及び価格】

(単位：千羽、円/kg、%)

区分(年次)		令和元年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
出荷羽数	全国	695,335	713,782	719,259	720,878	731,847	105.3
	佐賀	17,249	17,292	16,440	17,863	17,366	100.7
卸売価格（東京市場・もも）		593	636	713	720	690	116.4

資料 農林水産省「畜産統計」（令和6年2月1日現在、令和6年7月9日公表）

令和2年及び令和7年は農林業センサス実施年のため調査は休止している。

農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

注 卸売価格については「年度平均」。

(3) 輸入の動向

○ブロイラーの輸入量は約61万トンで、5年間で8.2%増加した。

○ブラジル、タイ産で総輸入量の98.5%を占めており、5年間でタイ産が大幅に増加している。

【輸入量】 (単位：トン、%)

区分(年度)	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年/R1年比
輸入量	572,118	552,832	594,223	565,043	608,569	618,754	108.2
うち中国	8	—	—	—	—	—	—
うちアメリカ	16,061	12,323	15,908	10,994	12,321	8,567	53.3
うちタイ	127,978	133,362	135,335	140,413	173,026	180,151	140.8
うちブラジル	424,479	404,647	440,458	411,641	422,517	429,383	101.2

資料 農畜産業振興機構HP「畜産物の需給関係の諸統計データ」

7 飼料

○飼料作物の作付面積は4,420haで、年々増加している。

【飼料作物作付面積】

(単位 : ha、 %)

区分(年次)		令和元年	2年	3年	4年	5年	6年	R6年/R1年比
飼料作物作付面積	全国	961,600	955,700	1,001,000	1,026,000	1,018,000	975,500	101.4
	佐賀	3,380	3,460	3,780	4,180	4,420	—	—

資料 農林水産省「作物統計 作況調査」(令和7年3月7日公表)

令和6年は主産県を調査の範囲としており佐賀県の面積は調査されていない。

令和6年の全国面積は、令和5年産の調査結果を基に推計したもの。

○配合飼料価格は、95,191円/トンで、5年間で42.6%増加した。

【配合飼料価格】

(単位 : 円/トン、 %)

区分(年度)		令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	R6年/R1年比
配合飼料価格 (工場渡し価格)		66,769	67,556	80,485	97,544	97,531	95,191	142.6

資料 農林水産省生産局畜産部飼料課編 公益社団法人配合飼料供給安定機構発行「飼料月報」(令和7年8月28日公表)

8 畜産環境保全

○家畜排せつ物法適用農家は、平成17年から全戸適正な処理を実施している。

【県内家畜ふん尿適正処理戸数 (法適用農家)】

(単位 : 戸、 %)

区分(年度)		29年度	30年度	令和元年度	3年度	4年度	5年度	R5年/H29年比
畜産農家戸数		690	611	609	614	595	577	83.6
適正処理戸数		690	611	609	614	595	577	83.6
適正処理割合		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—

資料 「家畜保健衛生所調査」及び「家畜排せつ物法施行状況等調査」

注 令和2年度及び令和6年度は調査していない。

佐賀県内で飼養されている牛及び豚、鶏一覧

農林	市町	乳用種		肉用牛※									牛 総計		豚		採卵鶏		肉用鶏		エミュー		だちょう		うずら		あひる		その他	
				肥育牛				繁殖牛																						
		黒毛和種等		乳用雄牛及び交雑種		繁殖牛		計	成牛	育成	子牛	のべ戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数(成鶏)	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	
		戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	頭数	戸数	頭数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数	戸数	羽数			
佐賀中部	佐賀市	5	71	6	480	×	×	17	664	474	39	151	28	1,215	7	15,460	24	65,494	6	227,900					3	22	×	×		
	多久市	×	×	11	2,026			12	534	349	24	161	23	2,560	×	×	5	38,809	×	×										
	小城市	×	×	10	1,035			12	513	366	25	122	22	1,548	×	×	4	57							×	×				
東部	鳥栖市							×	×	27	3	12	0	0	×	×	6	3,201	×	×					×	×				
	神埼市	3	464	×	×			×	×	30			3	464			5	1,908	×	×							×	×		
	吉野ヶ里町	×	×										0	0			×	×												
	基山町	×	×	×	×	×	×	×	×	5		2	0	0			4	552												
	上峰町			7	370								7	370	×	×														
	みやき町	×	×	×	×	×	×						0	0	×	×	4	34												
唐津	唐津市	7	226	39	10,887	×	×	134	5,255	3,200	536	1,519	180	16,368	8	19,275	17	96,051	17	1,144,800	4	211			×	×				
	玄海町	4	260	20	5,305	×	×	24	1,642	1,229	118	295	48	7,207	×	×														
伊万里	伊万里市			48	8,077	×	×	31	774	526	97	151	79	8,851	×	×	14	5,287	12	601,904	×	×			×	×	×	×		
	有田町			13	959			5	140	109	14	17	18	1,099	×	×	×	×	13	504,800										
杵藤	武雄市	×	×	20	1,282	×	×	54	1,471	910	80	481	74	2,753	6	9,141	11	19,385	3	255,000			×	×						
	大町町																×	×												
	江北町			×	×			×	×	28	4	21	0	0			4	60,647	×	×										
	白石町			21	1,633	3	266	27	1,369	949	118	302	51	3,268	×	×	6	15,125			×	×			×	×	×	×		
	鹿島市	×	×	16	1,768	3	157	24	1,210	789	148	273	43	3,135	×	×	4	26,345	×	×										
	嬉野市	×	×	5	127	×	×	16	255	160	24	71	21	382	×	×	4	3,993	7	121,200										
	太良町	×	×	8	633	×	×	21	915	577	75	263	29	1,548	7	17,302	×	×	15	904,800										
総計		31	1,813	231	35,262	19	1,047	382	14,874	9,728	1,305	3,841	663	52,996	42	68,427	115	354,538	79	3,937,106	11	775	×	×	9	83	7	29	×	×

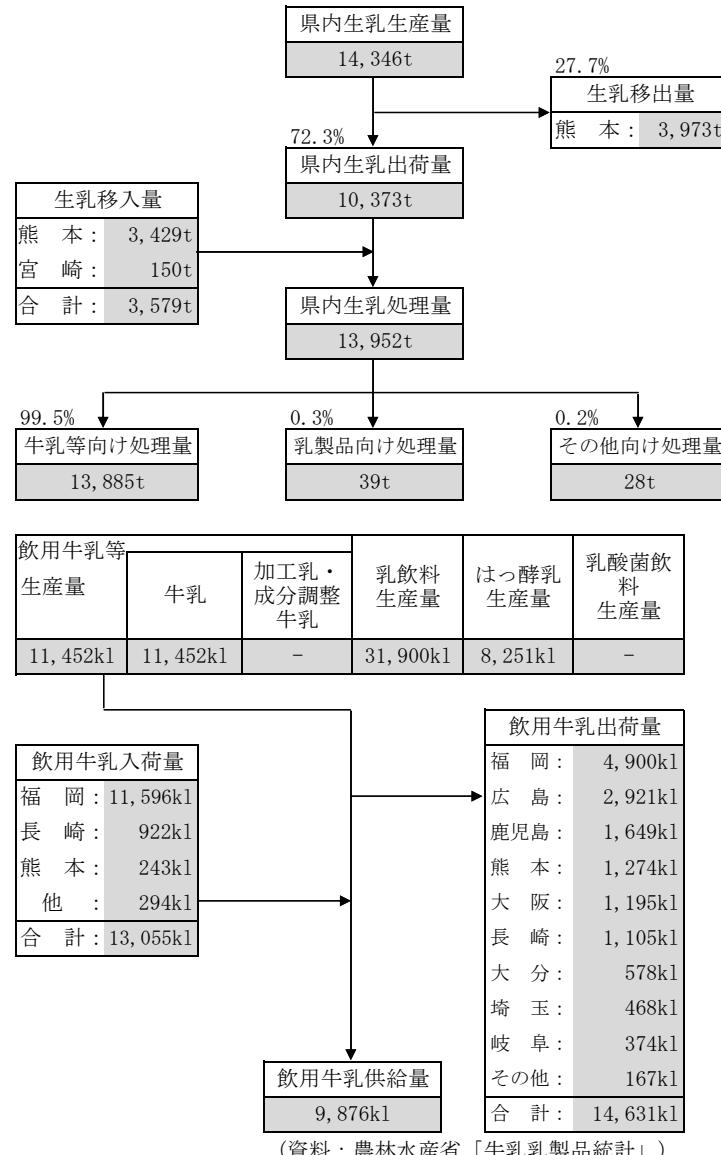
資料:「家畜保健衛生所調査」(令和7年2月現在)

※1肉用牛肥育の黒毛和種、乳用雄、交雑および繁殖牛の戸数はそれぞれ計上

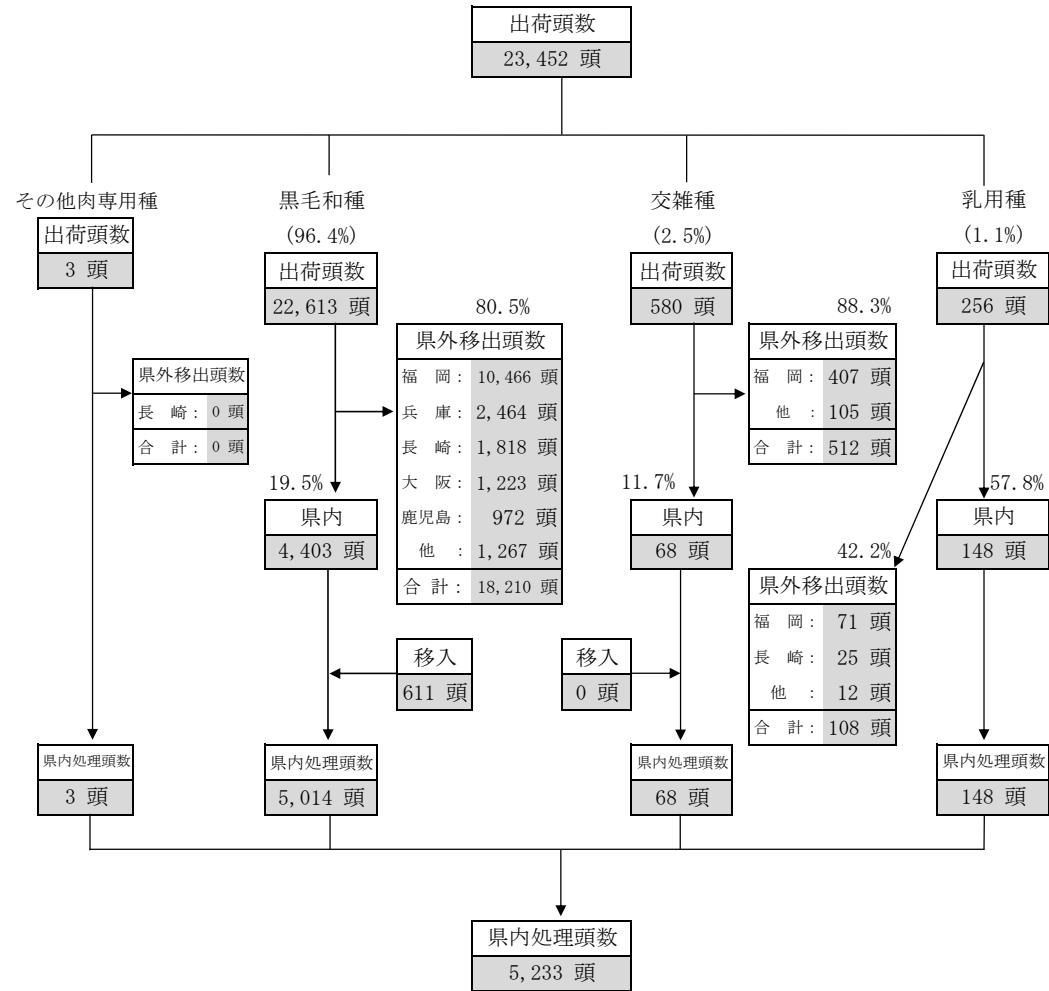
※2「×」は秘匿数値

III 畜産物の生産・流通状況

○ 牛乳流通図（令和2年）



○ 肉牛流通図（令和6年度）



「佐賀牛」の概要

1 「佐賀牛」とは

「佐賀牛」とは、JAさがが定める基準に適合した牛肉で、その基準は次のとおり。

J A グループ佐賀管内で肥育した黒毛和牛で、(社)日本食肉格付協会が定める牛枝肉取引規格の格付けで、
『肉質等級が4等級以上、かつ脂肪交雑のBMS値が7以上のもの』
(佐賀牛のブランド力向上のため、平成16年にBMS値8以上から7以上に拡大)

2 佐賀牛の歴史【佐賀牛の基準】

- (1) 昭和36年より県産牛を関西市場へ出荷開始。
- (2) 50年代後半、肉質がよいことに注目され始める。
- (3) 59年から県経済連が、佐賀牛と表示して出荷。(歩留等級や肉質等級は問わず、全てを佐賀牛として販売。出荷先は、大阪、神戸、京都等。)
- (4) 62年度、A-5、B-5等級格付の「佐賀牛」を佐賀特選ブランドに選定し、63年度から佐賀牛のシールとともに佐賀特選ブランドシールを貼付して販売。
- (5) 平成2年8月に県内での「佐賀牛」取扱指定店の拡大と適正な表示販売を促進するため佐賀牛販売促進協議会が発足。
- (6) JAグループ佐賀では「佐賀牛」の量の確保とブランド力を高めるため、平成16年1月から定義基準を肉質等級5等級又は4等級のもので脂肪交雫のBMS値がNo.7以上までに拡大。
- (7) 佐賀牛販売促進協議会においても県内の「佐賀牛」として販売できる牛肉の基準を拡大。
- (8) 平成19年から「佐賀牛」香港輸出開始。

3 佐賀牛の販売認定店制度

「佐賀牛」を取り扱う販売店（小売店）の認定（指定）状況は下記のとおりである。

(1) 県内

県内に所在する販売店からの申請に基づき、「佐賀牛表示販売取扱要領」の要件を満たす場合に佐賀牛販売促進協議会（事務局：県流通・貿易課）が「佐賀牛販売店」として認定

167店舗（令和6年6月末現在）

(2) 県外

県外に所在する販売店からの申請に基づき、「佐賀牛取扱店舗指定店要領」の要件を満たす場合にJAさがが「佐賀牛取扱店」に指定。

639店舗（令和6年6月末現在）

(3) 海外

94店舗（令和6年6月末現在）

（香港24、シンガポール26、タイ11、フィリピン10、マカオ10、その他）

4 県産和牛出荷頭数及び4・5率の変遷等

年度	県産和牛 出荷頭数 (頭)	繁殖雌牛 飼養頭数 (頭)	子牛 取引頭数 (頭)	和牛枝肉 平均単価 (円/kg)	肉質4・5等級率		佐賀牛 出荷頭数 (頭)
					佐賀県 (%)	全国 (%)	
H 17	24,690	9,820	6,151	1,998	59.9	54.8	4,792
H 18	24,886	9,470	6,307	2,001	61.8	55.5	4,742
H 19	25,023	10,200	6,236	1,926	58.7	56.5	4,830
H 20	26,338	11,200	6,898	1,735	61.5	59.0	5,884
H 21	27,158	11,700	7,344	1,616	62.1	58.3	6,137
H 22	27,164	11,500	7,507	1,590	62.8	57.2	6,211
H 23	28,075	11,100	7,207	1,590	63.8	58.8	6,668
H 24	27,307	10,100	6,796	1,698	67.5	63.0	7,221
H 25	26,933	9,540	6,591	1,847	65.2	58.1	7,905
H 26	25,739	9,400	6,317	1,956	77.9	73.5	9,090
H 27	24,060	9,080	6,149	2,345	81.6	78.0	9,452
H 28	23,132	9,070	6,174	2,540	82.5	80.3	9,352
H 29	22,690	9,230	6,440	2,416	84.5	82.1	9,702
H 30	22,452	9,190	6,557	2,466	86.9	83.7	10,224
R 1	22,456	10,100	6,562	2,336	87.8	86.5	11,099
R 2	22,325	9,710	6,774	2,215	91.4	88.2	12,114
R 3	21,836	9,890	6,593	2,467	92.6	90.1	12,741
R 4	21,945	10,000	6,770	2,397	94.1	91.6	13,116
R 5	22,494	10,100	6,673	2,287	94.4	92.5	14,129
R 6	22,613	9,950	6,256	2,309	95.4	94.3	14,194

資料：出荷頭数：「食肉流通統計」、H22から「家畜改良センターと畜頭数データ」

飼養頭数：「畜産統計」、子牛取引頭数：佐賀県農協調査、和牛枝肉平均単価：JAグループ佐賀

格付状況：（社）日本食肉格付協会（去勢のみ）

注1：佐賀県の格付状況は、全出荷先が対象。

2：格付状況の本県と全国の比較は、平成14年度までは、5率（本県：県経済連調査、全国：（社）日本食肉格付協会（去勢のみ））で比較したが、平成15年度以降、4,5率の比較（本県、全国：（社）日本食肉格付協会（去勢のみ））に変更。

3：「佐賀牛」出荷頭数 平成15年度までは5率以上、平成16年度からはBMS7以上

5 「佐賀牛」生産の課題

(1) 肥育素牛県内自給率の向上【県内肥育素牛自給率：2024 27.1%】

- ・佐賀県「食」と「農」の振興計画2023による目標値 2026 32.3%、2032 34.6%

(2) 優良種雄牛の確保

- ・平成8年度から肉用牛改良資源施設を運営開始

- ・認定種雄牛（供用中） 「照茂栄」、「豊晴福」、「美津秀吉」、「二尺玉」

佐賀県肉用牛改良資源施設飼養 種雄牛一覧

令和7年8月1日現在（育種価評価 令和7年5月）

区分	種雄牛名	父	母方祖父	母方曾祖父	4代祖	5代祖	生年月日	産地・育種価・検定成績
選抜	照茂栄	福安照	百合茂	福栄	北国7の3	第20平茂	H26. 11. 15	産地:白石町 育種価:AAHAAB(244頭) 直検:DG1. 16 現検:枝重550. 6kg、BMS9. 4 (R2. 5月選抜)
	豊晴福	豊茂国	平茂晴	福之国	安平	糸福 (大分)	H27. 10. 25	産地:玄海町 育種価:HAHCBA(34頭) 直検:DG=1. 28 現検:枝重536. 1kg、BMS9. 6 (R3. 5月選抜)
	美津秀吉	美津照重	勝忠平	福栄	糸晴 (佐賀)	糸波	H30. 11. 28	産地:白石町 育種価:BBACBH(34頭) 直検:DG=1. 36 現検:枝重547. 7kg、BMS10. 6 (R6. 5月選抜)
	三尺玉	直太郎	勝忠平	安福久	百合茂	平茂勝	R元. 8. 11	産地:嬉野市 育種価:HHHHHH(34頭) 直検:DG=1. 38 現検:枝重525. 7kg、BMS10. 7 (R7. 5月選抜)
検定中 〔待機〕	美智久	美国桜	耕富士	安福久	平茂勝	安平	R2. 5. 30	産地:鹿島市 直検:DG=1. 20 R8. 5月選抜予定
	美国85乃3	美国桜	白鵬85の3	百合白清2	勝安波	安平	R2. 11. 29	産地:伊万里市 直検:DG=1. 14 R9. 5月選抜予定
	九八	福之姫	百合茂	安福久	勝忠平	第5隼福	R3. 9. 8	産地:唐津市 直検:DG=1. 04 R10. 5月選抜予定
	姫孝千	福之姫	安亀忠	安福久	平茂晴	平茂勝	R4. 10. 16	産地:玄海町 (旧名:福之福) 直検:DG=0. 89 R10. 5月選抜予定
	零魅幸	勝乃幸	零実緒	平茂晴	勝忠平	安福165の9	R5. 2. 8	産地:玄海町 直検:DG=1. 21 R11. 5月選抜予定
直接検定牛	中山605	北美津久	美国桜	百合茂	安福久	平茂勝	R6. 5. 3	産地:玄海町 直検:令和6年12月開始
	白鵬	北美津久	白鵬85の3	安福久	平茂勝	飛騨白清	R6. 5. 5	産地:唐津市 直検:令和6年12月開始
検定予定	第29期 人工授精による作出 (R6. 4～人工授精開始)							
	第30期 人工授精による作出 (R7. 4～人工授精開始)							
全農種雄牛	満天太郎	金太郎3	百合茂	安福久	平茂勝	忠福	H29. 5. 29	産地:北海道 H31. 3月搬入
	北桜丸	勝早桜5	安福久	勝忠平	第5隼福	金徳	H31. 1. 13	産地:北海道 R2. 3月搬入
	北福峰	紀多福	白鵬85の3	美津照重	百合茂	美津福	R3. 4. 19	産地:北海道 R4. 3月搬入
	北萬徳	紀多福	滿天白清	耕富士	福之国	百合茂	R4. 7. 21	産地:北海道 R5. 5月搬入
	千代萬徳	北美津久	滿天白清	耕富士	福之国	百合茂	R5. 6. 19	産地:北海道 R6. 5月搬入
	貴白清2	貴隼桜	百合白清2	平茂晴	安福久	平茂勝	R4. 9. 11	産地:唐津市 直検:DG=1. 23 E黒053・R6前期調整交配 (令和7年2月26日譲渡)

○ 和牛枝肉販売実績表(JAグループさが)

販売先	令和3年度								令和4年度								
	頭数 (頭)	シェア (%)	枝肉重量 (kg)	平均単価 (円)	販売金額 (円)	5率 (%)	佐賀牛 (BMS7以上)	佐賀牛率 (%)	頭数 (頭)	シェア (%)	枝肉重量 (kg)	平均単価 (円)	販売金額 (円)	5率 (%)	佐賀牛 (BMS7以上)	佐賀牛率 (%)	
関西	南港	1,407	8.74	511.4	2,475	1,265,488	59.9	1,102	78.3%	1,198	7.49	513.5	2,430	1,247,796	64.8	1,000	83.5%
	神戸	1,381	8.58	463.4	2,483	1,150,511	64.4	1,208	87.5%	1,235	7.73	462.5	2,418	1,118,407	70.0	1,116	90.4%
	西宮	747	4.64	486.5	2,407	1,171,119	47.9	523	70.0%	698	4.37	492.2	2,335	1,149,063	52.9	511	73.2%
	京都																
	姫路	168	1.04	523.8	2,596	1,359,454	84.7	163	97.0%	251	1.57	529.6	2,575	1,363,696	84.5	247	98.4%
関東	東京	620	3.85	494.0	2,397	1,184,277	60.0	522	84.2%	625	3.91	491.4	2,353	1,156,378	67.4	518	82.9%
九州	畜産公社	2,221	13.80	469.2	2,354	1,104,279	58.0	1,629	73.3%	2,243	14.03	482.2	2,333	1,125,070	62.9	1,402	62.5%
	二日市	4,382	27.23	483.7	2,470	1,194,688	60.1	3,445	78.6%	4,371	27.34	487.0	2,398	1,167,640	63.3	3,526	80.7%
	福岡	4,311	26.79	498.1	2,566	1,278,318	64.0	3,568	82.8%	4,527	28.32	503.8	2,462	1,240,110	65.3	3,885	85.8%
	佐世保	135	0.84	434.9	2,488	1,082,199	51.9	92	68.1%	114	0.71	423.2	2,291	969,354	51.8	76	66.7%
	ナンチク	719	4.47	512.3	2,449	1,254,705	51.7	489	68.0%	719	4.50	515.9	2,398	1,237,407	53.4	495	68.8%
	その他									6	0.04						
	合計	16,091	100	488.1	2,477	1,208,977	60.5	12,741	79.2%	15,987	100	493.1	2,411	1,188,679	64.0	13,116	82.0%

販売先	令和5年度								令和6年度								
	頭数 (頭)	シェア (%)	枝肉重量 (kg)	平均単価 (円)	販売金額 (円)	5率 (%)	佐賀牛 (BMS7以上)	佐賀牛率 (%)	頭数 (頭)	シェア (%)	枝肉重量 (kg)	平均単価 (円)	販売金額 (円)	5率 (%)	佐賀牛 (BMS7以上)	佐賀牛率 (%)	
関西	南港	1,324	7.87	510.9	2,363	1,207,023	76.0	1,189	89.8%	1,222	7.34	508.5	2,347	1,193,433	80.0	1,112	91.0%
	神戸	1,197	7.11	468.7	2,332	1,092,854	75.7	1,108	92.6%	1,231	7.39	470.2	2,378	1,118,348	81.0	1,125	91.4%
	西宮	838	4.98	496.8	2,261	1,123,267	55.5	617	73.6%	863	5.18	497.5	2,273	1,131,013	59.3	678	78.6%
	京都									3	0.02	546.4	2,493	1,361,802	100.0	0	0.0%
	姫路	323	1.92	517.6	2,441	1,263,648	87.9	313	96.9%	323	1.94	514.7	2,428	1,249,836	95.4	316	97.8%
関東	東京	625	3.71	487.5	2,308	1,125,210	74.4	532	85.1%	613	3.68	481.1	2,259	1,086,746	74.4	563	91.8%
九州	畜産公社	2,806	16.67	481.2	2,217	1,066,637	67.4	2,283	81.4%	2,659	15.97	477.6	2,204	1,052,286	71.3	2,179	81.9%
	二日市	4,505	26.76	488.5	2,278	1,112,643	63.7	3,597	79.8%	4,294	25.78	491.3	2,274	1,117,204	67.0	3,495	81.4%
	福岡	4,389	26.07	500.0	2,355	1,177,542	68.9	3,844	87.6%	4,580	27.50	499.2	2,359	1,177,542	69.0	4,000	87.3%
	佐世保	106	0.63	423.2	2,286	967,421	63.2	81	76.4%	114	0.68	429.5	2,225	955,620	60.5	80	70.2%
	ナンチク	721	4.28	519.4	2,403	1,248,264	63.8	565	78.4%	707	4.25	522.0	2,422	1,264,555	73.3	601	85.0%
	その他									45	0.27	523.1	2,413	1,262,496	84.4	45	100.0%
	合計	16,834	100	492.5	2,308	1,136,698	68.0	14,129	83.9%	16,654	100	496.8	2,340	1,164,240	76.3	14,194	85.2%

※価格は税抜き

※JAさがら資料提供。

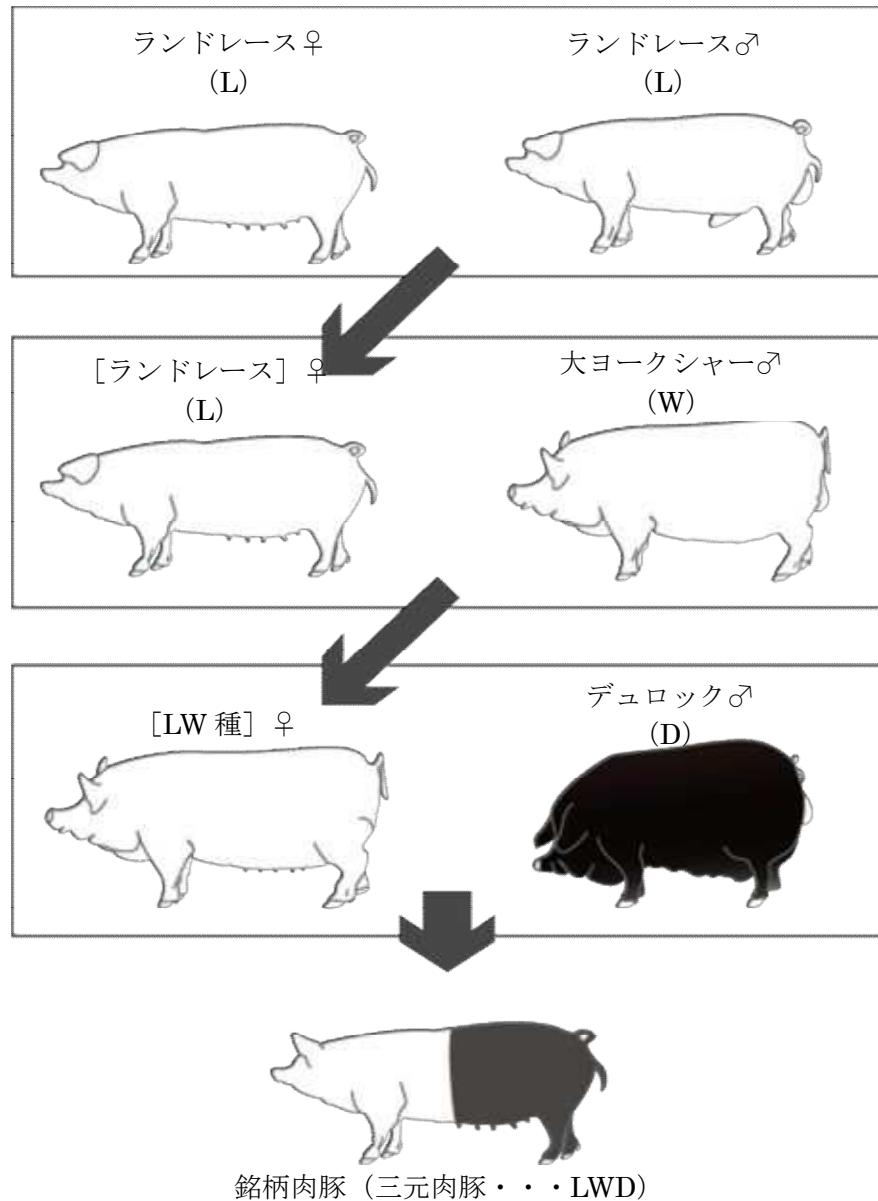
「佐賀牛」「佐賀産和牛」の輸出量推移

年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
輸出量 (t)	10.2	16.8	16.4	22.4	24.1	27.3	36.5	43.3	46.2	53.6	57.2	68.9

年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
輸出量 (t)	63.7	67.3	63.6	67.9	84.9	94.8

※佐賀県農林水産物等輸出促進協議会調べ（R6年度には佐賀県高性能食肉センター(KAKEHASHI)と畜分含む）

○「肥前さくらポーク」の概要 ~佐賀県産銘柄肉豚の生産体系~



特徴

- 限定農家から生産され、生産地が明確。
- 安全性を基本とした専用飼料により生産。
- 豚肉独特の臭みが少なく、肉のキメが細かく、軟らかい。
- 肉色は鮮やかなさくら色。

技術

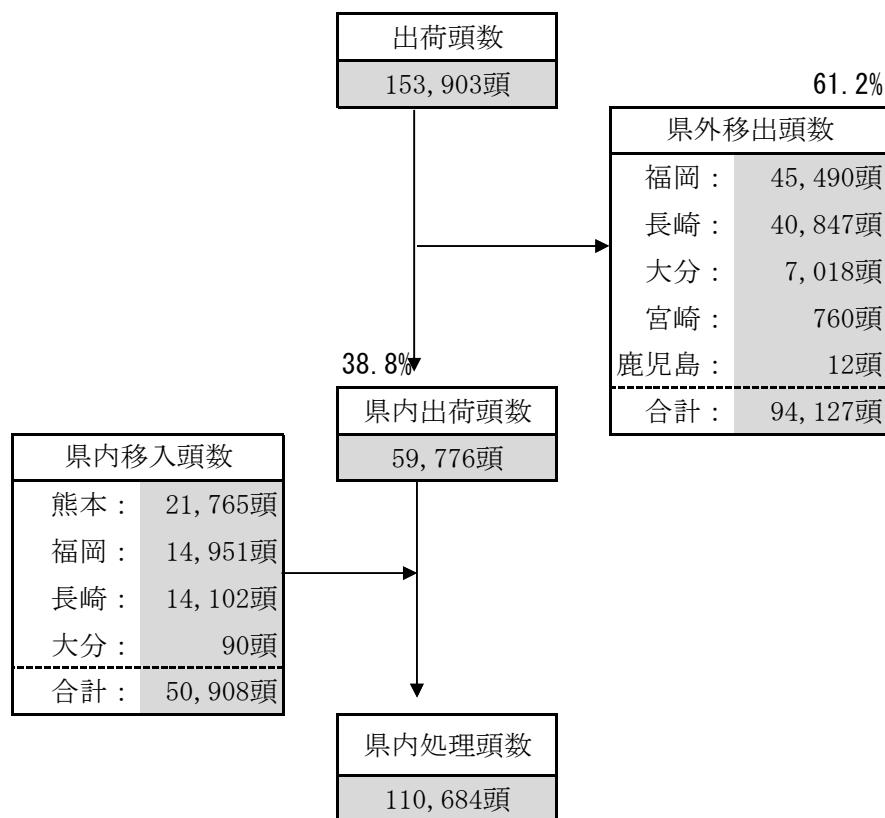
- この品質の良さは、なにより農家の生産技術の高さにあり、佐賀県における「上物」の割合はおおむね 67.3%となっています。
- 成長に合わせて JA 養豚用飼料を給与し、豚自体が持つ消化吸収や抗病性を高め健康な発育を促し、さらに肉質や脂質の向上を図っている。

年 度	H30 年	R 元年	R2 年	R3 年	R4 年	R5 年
出荷頭数	19,124	18,770	20,390	16,721	17,875	13,925

(資料：JAさが調査 R7.6 現在)

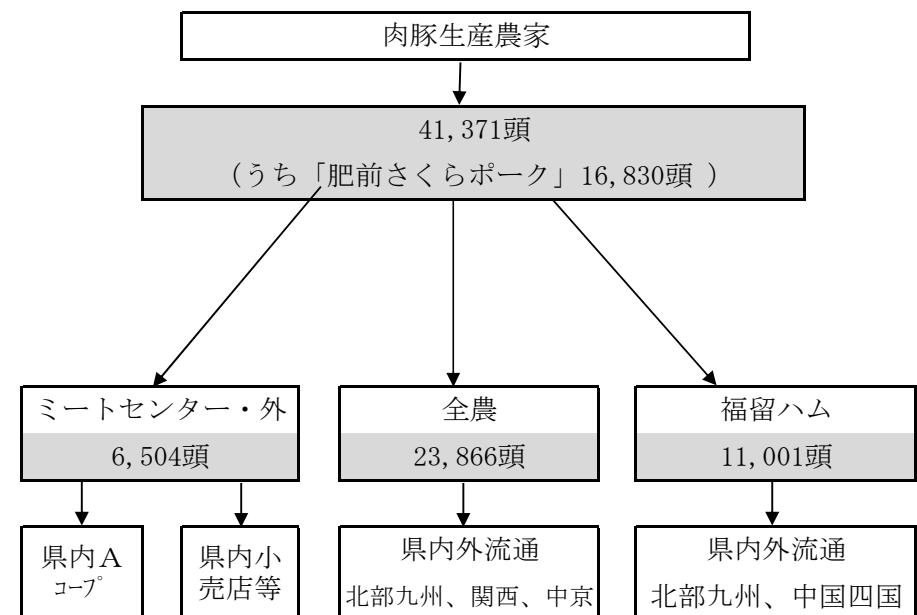
- 平成 6 年度から、県経済連が銘柄肉豚「肥前さくらポーク」として販売開始
- 令和 5 年度の出荷頭数は 13,925 頭で、JA グループ佐賀の肉豚総出荷頭数 (34,054 頭) の 40.9%を占める。
- 生産農家戸数は、JA 系統農家 9 戸中 5 戸で、肥前さくらポークの生産者には出荷奨励金の支給が行われている (令和 7 年 6 月現在)。

○ 肉豚流通図（平成21年）



(資料: 農林水産省「畜產物流通統計」)
※平成22年以降公表なし

○ 肥前さくらポーク流通図（令和6年度）



(資料: JAさが調査R7.6現在)

食料自給率・供給量の推移

区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5(概算)
肉類	自給率(%)	90	76	81	57	54	56	57	56	54	55	55	55	54	53	52	51	52	53	53	53	
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	17.9	22.9	28.5	28.5	28.5	28.6	29.1	29.6	30.0	30.1	30.2	30.7	31.6	32.7	33.3	33.4	33.5	34.0	34.0	33.9	
うち牛肉	自給率(%)	95	81	72	39	43	44	43	42	40	42	41	42	40	38	36	36	35	36	36	39	40
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	2.5	3.9	7.5	5.6	5.7	5.9	5.9	6.0	5.9	6.0	5.9	5.8	6.0	6.3	6.5	6.5	6.5	6.5	6.2	6.2	6.1
うち豚肉	自給率(%)	100	86	86	62	50	52	55	53	52	53	54	51	51	50	49	48	49	50	50	49	49
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	7.3	9.3	10.3	12.1	11.7	11.5	11.7	11.9	11.8	11.8	11.9	12.2	12.4	12.8	12.8	12.8	12.9	13.2	13.1	13.1	13.1
うち鶏肉	自給率(%)	97	97	92	69	67	70	70	68	66	66	66	67	66	65	64	64	66	66	64	64	65
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	5.3	8.4	10.1	10.5	10.8	11.0	11.3	11.4	12.0	12.0	12.2	12.6	13.0	13.4	13.7	13.9	13.9	14.4	14.6	14.4	14.4
区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5(概算)
鶏卵	自給率(%)	100	97	98	96	94	96	96	96	95	95	95	95	96	97	96	96	96	97	94	97	96
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	13.7	14.5	17.2	16.6	16.8	16.6	16.5	16.6	16.7	16.8	16.7	16.9	16.9	17.4	17.4	17.6	17.2	17.2	17.2	17.1	16.5
区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5(概算)
牛乳・乳製品	自給率(%)	86	81	85	72	68	70	71	67	65	65	64	63	62	62	60	59	59	61	62	62	63
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	53.6	70.6	91.2	91.8	86.3	84.8	86.4	88.6	89.5	89.0	89.6	91.1	91.3	93.4	95.2	95.5	92.4	94.4	93.9	90.1	
うち飲用向け	自給率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	28.1	35.2	40.6	36.7	34.2	32.7	31.8	31.6	31.1	30.8	30.4	30.8	31.1	31.1	31.2	31.2	31.6	31.5	31.1	30.3	
うち乳製品向け	自給率(%)	60	69	49	47	51	53	48	45	46	45	43	43	42	40	39	40	41	43	43	44	
	1人1年当たり供給純食糧(kg)	24.8	35.0	50.4	54.9	51.8	51.9	54.5	56.8	58.2	58.0	59.0	60.2	60.0	62.1	63.8	64.0	62.0	62.8	62.7	59.6	
区分(年度)		S40	S50	S60	H7	H17	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5(概算)
飼料	自給率(%)	55	34	27	26	25	26	25	25	26	26	26	27	28	27	26	25	25	26	26	27	

資料:農林水産省「食料需給表」(令和7年3月14日公表)

家計調査(二人以上の世帯) 都道府県庁所在市別ランキング(令和4年～令和6年) 出典:総務省統計局「家計調査結果」

令和3年～令和5年平均の家計調査品目別データ(二人以上の世帯(1世帯当たり年間の支出金額及び購入数量))により、どのような品目でどの程度の地域差があるのかを明らかにするため、都道府県庁所在市別ランキング(川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市を含む)を集計されたもの。(肉類)

順位	肉類 -----<金額>-	順位	生鮮肉 -----<金額>-	順位	牛 肉 -----<金額>-	順位	豚 肉 -----<金額>-	順位	鶏 肉 -----<金額>-	順位	合いびき肉 -----<金額>-	順位	他の生鮮肉 -----<金額>-
	全国 98,146		全国 79,576		全国 21,709		全国 33,286		全国 18,321		全国 3,120		全国 3,140
1	堺市 115,313	1	堺市 96,430	1	堺市 36,465	1	新潟市 38,033	1	大分市 22,590	1	長崎市 4,940	1	熊本市 6,344
2	大阪市 113,359	2	大阪市 95,476	2	京都市 34,543	2	福島市 37,060	2	福岡市 22,501	2	熊本市 4,937	2	札幌市 5,004
3	京都市 112,380	3	京都市 95,046	3	奈良市 33,909	3	さいたま市 36,802	3	熊本市 21,906	3	大分市 4,846	3	山形市 4,836
4	奈良市 110,931	4	奈良市 93,757	4	神戸市 33,653	4	東京都区部 36,718	4	鹿児島市 21,889	4	岡山市 4,829	4	大阪市 4,569
5	神戸市 110,180	5	神戸市 93,543	5	和歌山市 33,135	5	浜松市 36,438	5	京都市 21,377	5	鳥取市 4,754	5	北九州市 4,194
19	佐賀市 101,529	18	佐賀市 83,996	16	佐賀市 25,868	41	佐賀市 30,738	12	佐賀市 20,195	18	佐賀市 3,846	18	佐賀市 3,348

順位	生鮮肉 -----<数量: g>-	順位	牛 肉 -----<数量: g>-	順位	豚 肉 -----<数量: g>-	順位	鶏 肉 -----<数量: g>-	順位	合いびき肉 -----<数量: g>-	順位	他の生鮮肉 -----<数量: g>-
	全国 50,544		全国 5,861		全国 22,058		全国 18,236		全国 2,264		全国 1,578
1	大阪市 58,130	1	堺市 8,732	1	新潟市 27,252	1	熊本市 23,158	1	岡山市 3,497	1	熊本市 2,638
2	熊本市 57,729	2	大阪市 8,555	2	相模原市 25,278	2	大分市 23,109	2	長崎市 3,487	2	山形市 2,489
3	大分市 56,799	3	奈良市 8,268	3	福島市 25,276	3	鹿児島市 21,650	3	鳥取市 3,484	3	広島市 2,452
4	松江市 54,690	4	松山市 8,235	4	札幌市 24,688	4	福岡市 21,532	4	熊本市 3,474	4	青森市 2,174
5	広島市 54,467	5	北九州市 8,086	5	静岡市 24,396	5	大阪市 21,500	5	大分市 3,267	5	那覇市 2,127
6	佐賀市 54,310	16	佐賀市 7,162	27	佐賀市 21,007	7	佐賀市 21,023	19	佐賀市 2,737	16	佐賀市 1,748

順位	加工肉 -----<金額>-	順位	ハム -----<金額>-	順位	ソーセージ -----<金額>-	順位	ベーコン -----<金額>-	順位	他の加工肉 -----<金額>-
	全国 18,570		全国 4,733		全国 7,868		全国 2,576		全国 3,394
1	青森市 22,371	1	横浜市 5,875	1	青森市 9,558	1	山形市 3,548	1	那覇市 6,141
2	山形市 22,047	2	大津市 5,807	2	浜松市 8,952	2	静岡市 3,105	2	札幌市 5,225
3	札幌市 20,844	3	名古屋市 5,729	3	山形市 8,944	3	青森市 3,091	3	青森市 5,182
4	浜松市 20,428	4	相模原市 5,668	4	札幌市 8,791	4	福島市 3,066	4	山形市 4,960
5	相模原市 20,386	5	東京都区部 5,557	5	富山市 8,787	5	新潟市 3,049	5	福井市 4,521
35	佐賀市 17,533	18	佐賀市 4,924	48	佐賀市 6,741	39	佐賀市 2,359	13	佐賀市 3,509

順位	ハム -----<数量: g>-	順位	ソーセージ -----<数量: g>-	順位	ベーコン -----<数量: g>-
	全国 2,369		全国 5,324		全国 1,454
1	相模原市 3,091	1	青森市 6,373	1	山形市 2,194
2	岐阜市 2,999	2	山形市 6,194	2	相模原市 1,843
3	堺市 2,906	3	浜松市 6,145	3	福島市 1,826
4	名古屋市 2,716	4	新潟市 5,937	4	新潟市 1,811
5	大津市 2,692	5	富山市 5,929	5	青森市 1,806
16	佐賀市 2,507	49	佐賀市 4,430	31	佐賀市 1,402

家計調査(二人以上の世帯) 都道府県庁所在市別ランキング(令和4年～令和6年) 出典:総務省統計局「家計調査結果」

令和3年～令和5年平均の家計調査品目別データ(二人以上の世帯(1世帯当たり年間の支出金額及び購入数量))により、どのような品目でどの程度の地域差があるのかを明らかにするため、都道府県庁所在市別ランキング(川崎市、相模原市、浜松市、堺市及び北九州市を含む)を集計されたもの。(乳卵類)

順位	乳卵類 -----<金額>-	順位	牛乳 -----<金額>-	順位	乳製品 -----<金額>-	順位	ヨーグルト -----<金額>-	順位	バター -----<金額>-	順位	チーズ -----<金額>-	順位	卵 -----<金額>-
	全国 50,639		全国 15,545		全国 23,355		全国 13,667		全国 1,290		全国 6,868		全国 11,739
1	山形市 56,167	1	京都市 18,876	1	山形市 27,938	1	山形市 17,580	1	京都市 1,894	1	東京都区部 9,261	1	高知市 13,829
2	奈良市 55,682	2	奈良市 18,523	2	東京都区部 27,842	2	水戸市 16,467	2	東京都区部 1,698	2	さいたま市 8,581	2	鳥取市 13,813
3	東京都区部 55,620	3	大津市 17,760	3	川崎市 27,419	3	盛岡市 16,146	3	川崎市 1,646	3	相模原市 8,565	3	岐阜市 13,805
4	千葉市 55,611	4	堺市 17,750	4	千葉市 27,400	4	福島市 15,960	4	千葉市 1,643	4	札幌市 8,464	4	福島市 13,625
5	神戸市 54,896	5	神戸市 17,427	5	さいたま市 27,288	5	浜松市 15,836	5	横浜市 1,627	5	横浜市 8,353	5	堺市 13,054
49	佐賀市 44,439	49	佐賀市 13,271	45	佐賀市 19,748	39	佐賀市 12,105	51	佐賀市 970	44	佐賀市 5,424	38	佐賀市 11,420

順位	牛乳 -----<数量:リットル>-
	全国 70.51
1	京都市 81.62
2	奈良市 81.53
3	大津市 80.55
4	堺市 79.29
5	名古屋市 78.98
47	佐賀市 58.08

順位	バター -----<数量: g>-	順位	チーズ -----<数量: g>-	順位	卵 -----<数量: g>-
	全国 579		全国 3,561		全国 30,925
1	京都市 849	1	相模原市 4,695	1	鳥取市 36,870
2	川崎市 754	2	東京都区部 4,371	2	新潟市 36,045
3	東京都区部 752	3	川崎市 4,338	3	岐阜市 35,839
4	札幌市 751	4	さいたま市 4,277	4	松江市 34,907
5	静岡市 734	5	札幌市 4,267	5	奈良市 34,298
49	佐賀市 444	44	佐賀市 2,848	42	佐賀市 28,984

IV 參考資料

配合飼料価格の推移について(佐賀県)

作成:令和7年6月19日現在

○全農は令和7年7～9月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢等を踏まえ、令和7年4～6月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約2,200円値下げすることを決定しました。

○どうもろこしのシカゴ定期は、6月19日現在は440セント/ブッシュル前後で推移しています。今後は、南米産地の作柄や米国産新穀の生育期の天候などに左右される相場展開が見込まれます。

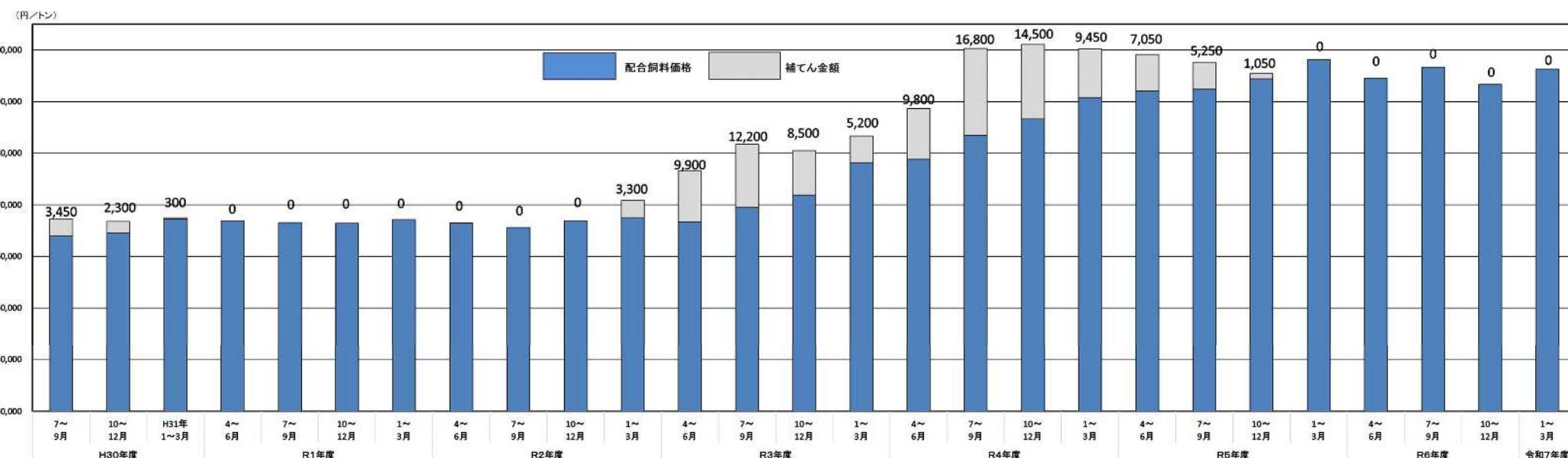
○大豆粕のシカゴ定期は、3月は330ドル/トン前後で推移していましたが、米国において大豆搾油量が堅調に推移していることに加え、南米産大豆の豊作見通しや、米国産新穀大豆の作付けが順調であることなどから下落し、現在は310ドル/トン台で推移しています。

○米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、3月は45ドル/トン前後で推移していましたが、航海日数の長い中国向けの南米産大豆の輸出が堅調に推移し船腹需給が引き締まっていることなどから上昇し、現在は51ドル/トン前後で推移しています。

○外国為替は、4月中旬には一時139円前後で推移していましたが、その後、日銀の早期利上げ観測が後退したことなどから、現在は144円前後で推移しています。

(1ブッシュル=25.4kg) (JA全農ニュースより)

	R3年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R4年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R5年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R6年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	R7年 1～3月	4～6月
配合飼料価格	70,859	76,558	81,674	80,423	83,302	88,599	100,270	101,092	100,276	99,135	97,623	95,441	98,074	94,569	96,786	93,343	96,278	96,272
上下幅	3,872	5,699	5,116	△1,251	2,879	5,297	11,671	822	△816	△1,141	△1,512	△2,182	2,633	△3,505	2,217	△3,443	2,935	△6
農家負担額（推計）	67,559	66,658	69,474	71,923	78,102	78,799	83,470	86,592	90,826	92,085	92,373	94,391	98,074	94,569	96,786	93,343	96,278	96,272
上下幅	572	△901	2,816	2,449	6,179	697	4,671	3,122	4,234	1,259	288	2,018	3,683	△3,505	2,217	△3,443	2,935	△6
補てん額	3,300	9,900	12,200	8,500	5,200	9,800	16,800	14,500	9,450	7,050	5,250	1,050	0	0	0	0	0	0



○高病原性鳥インフルエンザとは

1. 原因（病原体）・・・ 鳥インフルエンザウイルスのうち高病原性のもの
(*Orthomyxoviridae Influenza virus A*)
2. 感受性動物・・・ 鶏、あひる、七面鳥、うづら等
3. 症 状・・・ 神経症状（首曲がり、沈うつ等）、呼吸器症状、消化器症状（下痢、食欲減退等）、高い死亡率が主な症状
4. 潜伏期間・・・ 2~6 日
5. 伝播様式・・・ 飛沫感染、糞口感染
6. 発生状況
 - (1) 国 内

1925 年（大正 14 年）
奈良県、千葉県、東京府（当時）

2003 年シーズン：3 県 4 事例 約 27 万羽 殺処分
山口県、大分県、京都府

2005 年シーズン：2 県 41 事例 （低病原性） 約 578 万羽 殺処分
茨城県、埼玉県

2006 年シーズン：2 県 4 事例 約 16 万羽 殺処分
宮崎県、岡山県

2009 年シーズン：1 県 7 事例 （低病原性） 約 160 万羽 殺処分
愛知県

2010 年シーズン：9 県 24 事例 約 183 万羽 殺処分
島根県、愛知県、宮崎県、鹿児島県、三重県、奈良県、和歌山県、大分県、千葉県

2014 年シーズン：5 県 6 事例 約 46 万羽 殺処分
熊本県、宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県

2016 年シーズン：9 道県 12 事例 約 166.7 万羽 殺処分
青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県
 - (2) 外 国

- 2017 年シーズン：1 県 1 事例 約 9.1 万羽 殺処分
香川県
- 2020 年シーズン：18 県 52 事例 約 987 万羽 殺処分
香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県
- 2021 年シーズン：12 道県 25 事例 約 189 万羽 殺処分
秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道
- 2022 年シーズン：26 道県 84 事例 約 1,771 万羽 殺処分
岡山県、北海道、香川県、茨城県、和歌山県、兵庫県、鹿児島県、新潟県、宮崎県、青森県、宮城県、千葉県、福島県、鳥取県、愛知県、佐賀県、山形県、広島県、沖縄県、埼玉県、福岡県、長崎県、群馬県、大分県、滋賀県、岩手県
- 2023 年シーズン：10 県 11 事例 約 85.6 万羽 殺処分
佐賀県、茨城県、埼玉県、鹿児島県、群馬県、岐阜県、山口県、香川県、広島県、千葉県
- 2024 年度シーズン：14 道県 51 事例 約 932 万羽 殺処分
北海道、千葉県、新潟県、島根県、香川県、宮城県、岐阜県、鹿児島県、埼玉県、宮崎県、愛媛県、茨城県、愛知県、岩手県
- (2) 外 国 アジア、欧州、アフリカ等
(東南アジア、中東及び中国では、人への感染の報告あり)
7. 診断法
 - (1) 抗原検査（簡易ウイルス検査、遺伝子検査、ウイルス分離）
 - (2) 抗体検査（ELISA、寒天ゲル内沈降反応）
8. 予防法・・・ 飼養衛生管理基準の遵守。
鶏用のワクチンは一部の国で限定的に使用。
9. 治療法
 - (1) なし。
 - (2) 発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○ 口蹄疫とは

1. 原因（病原体）・・・口蹄疫ウイルス (Foot-and-mouth disease virus)

2. 感受性動物・・・偶蹄類の動物
(牛、水牛、めん羊、山羊、豚、鹿、いのしし)

3. 症状・・・突然40~41℃の発熱、元気消失に陥る
と同時に多量の流涎（よだれ）がみられ、口、蹄、
乳頭等に水胞を形成し、食欲不振、跛行（足を
ひきする）を呈する。乳用牛の場合には泌乳量が
低下し、肉用家畜の場合は肥育効率が低下する等
家畜の経済能力が著しく低下する。人に感染する
ことはない。

4. 潜伏期間・・・2~14日

5. 伝播様式・・・空気感染等

6. 発生状況

(1) 国内

1908年（明治41年）東京、神奈川、兵庫、新潟 計522頭

2000年（平成12年）3、4月 宮崎県2戸20頭（疑似患畜35頭）
5月 北海道1戸2頭（疑似患畜705頭）

2010年（平成22年）4月~7月 宮崎県292戸 211,608頭

(2) 外国 アジア（中国・韓国等）、アフリカ、南米 他

7. 診断方法

(1) 抗体検査

(2) 抗原検査（水胞材料からのウイルス分離、抗原検出ELISA法、抗原検出キット、PCR検査）

8. 予防方法

不活化ワクチンが用いられているが、発症家畜の淘汰による清浄化の推進を中心となりつつある。

我が国では厳重な検疫を実施（発生国からの畜産物等の輸入禁止措置等）している。

9. 治療方法

(1) なし。

(2) 発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○ 豚熱（CSF:Classical swine fever）とは

1. 原因（病原体）・・・CSFウイルス (Classical swine fever virus)

2. 感受性動物・・・豚、イノシシ

3. 症状・・・ウイルスの株や豚の月齢・状態により、極めて多様な病原性を示す。特定症状に挙げられているものには、紫斑、高熱、結膜炎、後軸麻痺、発育不良、血液凝固不全、流死産、白血球数減少、死亡頭数増加等がある。

4. 潜伏期間・・・2~6日（急性型）

5. 伝播様式・・・感染動物との直接接触（経口・経鼻）、汚染された器具、人との接触による。豚肉製品中に長期間存在しているので、ウイルスに汚染された厨芥、残飯が伝播源として重要。

6. 発生状況

(1) 国内

2018年（平成30年）9月、岐阜県で26年ぶりに発生。

令和7年10月現在飼養豚で24都県、野生イノシシでは41都府県で発生。

(2) 外国

北米、オーストラリア、スウェーデンなどでは清浄化。

7. 診断方法

(1) 抗体検査

(2) 扁桃、脾臓等を用いた抗原検査（ウイルス分離検査、PCR検査及び蛍光抗体法）

8. 予防方法

飼養衛生管理基準の遵守。ただし農林水産大臣が推奨する地域では、知事の命令でワクチンが使用され、令和7年9月現在で北海道を除く都府県で飼養豚にワクチンを接種している。野生イノシシでは43都府県で経口ワクチン散布が行われている。

9. 治療方法

(1) なし。

(2) 飼養豚・イノシシで発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○ アフリカ豚熱（ASF : African swine fever）とは

1. 原因（病原体）・・・ASF ウイルス（African swine fever virus）
2. 感受性動物・・・豚、イノシシ
3. 症状・・・突然死（緊急性）や急性から慢性の症状、無症状等の幅広い病態を示す。症状は豚熱に酷似し、紫斑、高熱、結膜炎、後駆麻痺、流死産、白血球数減少、死亡頭数増加等がある。甚急性型の死亡率は 100% に達する。
4. 潜伏期間・・・5~21 日（経口感染および接触感染）
5. 伝播様式・・・感染動物との直接接触（経口・経鼻）、汚染された器具、人との接触による。豚肉製品中に長期間存在しているので、ウイルスに汚染された厨芥、残飯が伝播源として重要。豚熱ウイルスよりも環境残存性が高い。
6. 発生状況
 - (1) 国内 未発生
 - (2) 外国 アフリカ、欧州、日本を除くアジア全域で発生
7. 診断方法
 - (1) 抗体検査
 - (2) 扁桃、脾臓等を用いた抗原検査（ウイルス分離検査、PCR 検査及び蛍光抗体法）
8. 予防方法
有効なワクチン等はない。
飼養衛生管理基準の遵守。
9. 治療方法
 - (1) なし
 - (2) 飼養豚・イノシシで発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○ ヨーネ病とは

1. 原因（病原体）・・・ヨーネ菌（*Mycobacterium avium* subspecies *paratuberculosis*）
2. 感受性動物・・・牛、水牛、鹿、めん羊、山羊
3. 症状・・・多くは不顕性感染だが、分娩 1 ヶ月以内に発症することが多い。
1~2 週間を周期とする間欠性の下痢、急激な削瘦、泌乳停止。下痢は難治性で、大部分では削瘦し、衰弱死する。
4. 伝播様式・・・主に感染した動物の糞便に汚染された乳汁、飼料又は飲水を介し、経口感染する。重症例では、胎盤感染も成立する。
5. 発生状況
 - (1) 国内
1930 年に初めて、輸入牛で確認されたが、1980 年以降から、徐々に国産牛での発生が増加している。
 - (2) 外国
北米、ヨーロッパ諸国、オーストラリアでも発生し、重要損耗疾病として注目されている。
6. 診断方法
 - (1) 抗体検査や遺伝子検査（リアルタイム PCR 法）
 - (2) 免疫学的検査では、遅延型過敏反応を検出するヨーニン反応がある。
 - (3) 糞便から直接菌を確認する方法（抗酸菌染色）と、菌分離（糞便、腸管、腸間膜リンパ節）
7. 予防方法
有効なワクチン等はない。
感染牛の早期摘発・淘汰及び汚染物品の消毒。
8. 治療方法
 - (1) なし
 - (2) 発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づく殺処分を行う。

○ 牛伝染性リンパ腫とは

1. 原因（病原体）・・・牛伝染性リンパ腫ウイルス (Bovine leukemia virus)

2. 感受性動物・・・牛、水牛

3. 症状・・・地方病型、子牛型、胸腺型、皮膚型があり、地方病型が最も多い。不顕性感染が多く、発症した場合は削瘦、元気消失、食欲不振、眼球突出、下痢等や体表リンパ節の腫大等がみられる。子牛型、胸腺型（胸腺の腫大）、皮膚型（皮膚の限局性腫瘍）は散発している。

4. 潜伏期間・・・数ヶ月から数年

5. 伝播様式・・・水平伝播と垂直伝播が主で、水平伝播には、吸血昆虫によるもののほか、除角器、削蹄鎌、注射針又は直腸検査用手袋等の連続使用がある。
垂直感染には、子宮内（産道）感染がある。

6. 発生状況

(1) 国内

1927年に初めて発生して以来、全国にまん延している。

(2) 外国

北米、南米大陸、オーストラリア、アジア、ヨーロッパ、ロシアなど多くの国に分布している。

7. 診断方法

(1) 抗体検査

(2) 遺伝子学的検査

(3) 病理組織学的検査

8. 予防方法

有効なワクチン等はない。

感染牛の早期摘発・淘汰と非感染農場からの導入。

9. 治療方法

(1) なし

(2) 発生した場合には、発生場所の消毒、感染牛の淘汰などが望ましい。